

○ イキイキ生活応援フェア in 東京を開催、地域ブランドPR—消費総合C

日本食肉消費総合センターは24日、東京・豊島区のサンシャインシティ噴水広場で「国産牛肉の健康パワーを知る イキイキ生活応援フェア」を開き、消費者に国産牛肉の栄養・機能や生産者の取組みについて理解を求めた。大阪(既報)と名古屋に続いての開催で、当日は料理研究家の平野レミさんによる国産牛肉を使ったレシピ紹介や、お笑いコンビのテツ&トモさんによる「国産牛肉イキイキ生活応援歌」が披露され、会場は休日の買い物客らで終始賑わいを見せていた。



また、肉用牛生産に対する理解を深めてもらおうと、当時は「宗谷黒牛(北海道)」「はこだて大沼牛(同)」「彩の夢味牛(埼玉)」「東京黒毛和牛(東京)」の4ブランドの試食(1,200食)を振舞ったほか、各地の生産者・関係者4人が登壇して、各自のブランド牛肉をアピール=写真。宗谷黒牛の大貫與四郎さん(㈱ジェイイーティーファーム)は「北海道の最北端の宗谷岬に広大な草原で、無農薬・除草剤を使用していない牧草を沢山食べた牛。非遺伝子組み

換えとうもろこしを使っているほか、全国で最初に『全農安心システム』の認証を受けた牧場で飼育している。F1であるため美味しさとヘルシーさを兼ね備えている」とコメント、はこだて大沼牛の小澤嘉徳さん(㈱大沼肉牛ファーム)は「成長ホルモンを使用しないヘルシーで美味しい牛肉で、年間6千頭を出荷している。消費者と牛の健康、そして粗飼料を作る畑の健康を考えた安全な牛を育てることをモットーとしている」と述べた。彩の夢見牛の五十嵐俊一さん(彩の夢見牛生産者部会)は「生産者が統一した指定配合飼料を使っているだけでなく、『彩の国畜産物ガイドライン』による衛生管理を実施している」と述べ、東京黒毛和牛について植村光一郎さん(㈱ミートコンパニオン執行役部長)が「東京都内の5件の農家で和牛を飼っている。東京の西部は、富士山からの伏流水が湧き出しており、水環境が良い。生産効率を高めようと早く仕上げるところも多いが、ここでは28ヵ月以上、牛の生理を考えながら飼っている。東京でも和牛を飼っていることを知ってもらい、ぜひ食べてもらいたい」とアピールしていた。

○ デンマークからの家きん肉等の輸入一時停止措置を解除—農水省

農水省は21日、デンマークからの家きん肉等の輸入一時停止措置を同日付で解除した。今年4月30日付で、同国で弱毒タイプの鳥インフルエンザの発生が確認されたことから同国からの輸入を一時停止していたが、デンマークの家畜衛生当局からの情報により清浄性を確認したもの。なお、同国からの07年の輸入実績は鶏肉20t、鶏卵515tとなっている。